

平成26年度第1回長井市振興審議会 議事録

開催日時:平成26年5月28日(水) 15時00分 ~ 16時40分

開催場所:長井市役所 3階 第一委員会室

出席者:20名(委員14名、事務局6名)

■振興審議会委員 北川忠明委員、横澤泰雄委員、渡部秀一委員、齋藤繁喜委員、横山寛道委員、高橋郁子委員、加藤弘二委員、勝見裕子委員、勝見英一朗委員、馬場先委員、齋藤真知子委員、鈴木周子委員、平吹登委員、磯村志津香委員
(出席14名、欠席4名)

■事務局 遠藤副市長
企画調整課 谷澤課長、佐々木地域戦略室長、笹原地域戦略主査、今野主任、佐藤主任

傍聴者: 1名

【次第】

- 1 開 会
- 2 長井市振興審議会委員の任命(新任委員)
- 3 諮 問
- 4 あいさつ
- 5 協 議
 - (1)諮問の内容について
 - ・第五次総合計画の進行管理について(資料1)
 - ・第四次国土利用計画の策定について(資料2)
 - (2)今年度の振興審議会の進め方について(資料3)
 - (3)その他
- 6 報 告
 - ・重要事業要望の内容について
- 7 その他
- 8 閉 会

【議事録】

- 1 開 会
- 2 長井市振興審議会委員の任命(新任委員)

副市長から新任委員3名へ委嘱状を交付した。
- 3 諮 問

副市長から審議会会長へ諮問した。
- 4 あいさつ

○遠藤副市長(事務局長)
振興審議会では、第五次総合計画の策定について、平成24年3月から昨年11月まで、多くの審議

を重ねていただいた。第五次総合計画は平成26年3月に議会の議決を得て、この4月より計画期間がスタートしている。

先ほど諮問させていただいた内容は、一つ目は第五次総合計画の進捗管理についてである。PDCAを回すことは行政が不得意とする分野であるため、みなさまの力をお借りしながら進捗管理を進めてまいりたい。二つ目は、新たな国土利用計画の策定である。この計画は今後の土地利用の方向性を定めるものであり、土地利用に関する計画のなかで最上位に位置する計画である。

先日、日本創世会議で地方都市にとってショッキングな報告がなされた。2040年までに20代～30代の女性が半数を切っている市町村は消滅する可能性があるという報告である。総合計画をきちんと進捗管理しながら、決して消滅することのない持続可能な自治体をつくるため、努力を続けていかなければならない。

審議会委員のみなさまには忌憚のないご意見、ご質問をいただきたい。

○北川振興審議会会長

第五次総合計画の策定については、昨年度みなさんのお力をお借りしながら策定をした。先日の日本創世会議の報告は非常にショッキングであった。長井市は幸い、消滅の可能性がある自治体には含まれなかった。長井市の第五次総合計画は「みんなで創る しあわせに暮らせるまち 長井」という将来像を実現するための10年間の計画である。雇用の場の確保や、子育てしやすく元気に暮らせる環境づくりが、しあわせに暮らせる長井につながると思うので、今後も皆様の審議をよろしくお願いしたい。

5 協 議 [座長＝北川会長]

(1) 諮問の内容について

・第五次総合計画の進行管理について(資料1)

資料1に基づき事務局から説明。

(会長)

第五次総合計画は市民参加のまちづくり計画として、市民意向調査や説明会などを行いながら策定したが、計画策定にこれほど市民が関わることは珍しい。また、これからどう推進していくかが重要だが、進捗管理についても市民が関わるということは珍しい。耳慣れない言葉もあるかもしれないが、率直にご意見を伺いたい。

(委員)

H24年度に行った市民意向調査は、第五次計画策定のための意向調査なので、「こうあればいいな」という内容について調査した。次に調査を行う際は、第四次総合計画で進めてきた事業について評価してもらうことになると思う。第五次総合計画を策定する際、第四次総合計画はあまり市民レベルまで浸透していなかったという反省があった。事業内容がどう実施されてきたのかが分からなければ、評価はうまくいかないと思う。たとえば、満足度が30%から60%に上がった時、達成できたと評価するのか、また80%だったものが70%に下がった時、数値は下がっていても、市民の満足度は依然として高いわけだが、それをどう評価するのか。事業が進捗したかを評価するのは、計画を策定する際のアンケート調査と同じような考え方ではできないと思う。どういった方法で意向調査を行うのか、考えがあれば伺いたい。

(事務局)

H24年度に意向調査を行った際の内容は、行政が行った施策について、満足か、重要かを問うものだった。今後もH24年度の意向調査をベースにしたいと考えている。第四次計画の内容ではあるが、第四次計画と第五次計画は全く別のものというわけではなく、施策は引き継がれていると考えられる。H24年から2年経過してどのように変化しているかをみたい。先ほど意見のあった数値の捉え方につ

いては、まず実態を把握してから分析をしていくことになる。実態が出てきたときにみなさんにも見ていただきながら、どう評価するかのご意見を伺いたい。

（会長）

審議会でもチェックをしていくが、その際の素材としてアンケート調査もしていくということだ。

（委員）

第五総合計画の進行管理はどういう視点で評価するのか、それらについてはこれから検討することか。アンケートはまた別なのか。

（事務局）

評価の視点についてだが、計画には目標と成果指標を各分野に設けている。目標はできるだけ数値で表しているの、まずはそれらを視点と考えたい。成果指標の数値とアンケートの数値はイコールではない。成果指標の数値は各課で常に把握できるものを設定した。それをもとに進捗管理していきたい。アンケートは各施策についての満足度をはかるものである。

（委員）

審議委員として、進行管理に具体的にどう関わるのか。出された原案について、意見を言うだけでいいのか。

（事務局）

昨年度までは専門部会を数回開いており、自分たちで計画を作っていくというイメージがあったかもしれないが、今年度は事務局側で資料を揃えて審議いただく形をとる。

（委員）

委託研修事業の目的について、「従来の評価制度を改善し」という表現があるが、従来の評価制度はどのような評価制度だったのか。

（事務局）

これまでの評価は行政評価という形で、内部で評価していた。今回はどのようにすると実効性があるかということについて調査研究の委託をし、さらに審議会でもみなさんにご意見をいただくことによって、よりよい進行管理の方法を確立したいと考えている。

（委員）

第五次総合計画は10年間の計画なので、予算措置ができるものとできないものがあると思う。評価は全体についての評価なのか、予算がついた事業のみの評価なのか。

（事務局）

資料1をご覧ください。図の外側の網掛けになっている部分が前期計画についてだが、こちらは予算がついているものというわけではない。図の内側の実施計画は3年の予算を見通した計画である。予算策定の際に1年ごとに見直しを図りながら進めていきたいと考えている。実施計画を決めていく際も市民の意向は大事だと考えているので、このような評価制度を取り入れていくべきではないかと考えている。

（会長）

進行管理の具体的な方法については、次回から詰めていきたい。

・第四次国土利用計画の策定について(資料2)

資料2に基づき事務局から説明。

(委員)

国土利用計画法とセットになっている法律に国土形成法というものがある。具体的な方針については、国土形成法に基づく国土形成計画に落とし込んでいくということか。

(事務局)

国土形成計画は市町村ごとの策定の定めがあるわけではない。国土形成法は国が定める計画に関することを規定する法律である。市町村は国土利用計画を策定し、個別の計画については、都市計画法に基づく都市計画や、農振計画、森林計画など、個別法に基づくそれぞれの計画を作ることになっている。それら個別計画は国土利用計画の下に連なるイメージである。

(会長)

都市計画は都市計画法によってがんじがらめに縛られていた時代があった。比較的、自主性や自立性が重んじられるようになったのは最近である。

総合計画がまちづくり計画であるので、それに即した形でご審議いただきたい。

(委員)

第4回審議会の答申までに国土利用計画はある程度固まっているということか。また、進行管理の委託についても研究結果が答申まで出てきているということか。

(事務局)

そのような予定である。委託研究する内容については、答えを求めるものではなく、研究結果を参考にして検討するものである。それを見たうえで、長井市に即した進捗管理の方法は何かを検討していきたいと考えている。

(委員)

第4回目の答申までに、間の2回は進行管理の方法やアンケートについて審議するという認識でいいか。

(会長)

そのような内容になると思う。

(2)今年度の振興審議会の進め方について

資料3に基づき事務局より説明。

質問・意見なし

(3)その他

なし

6 報 告

・重要事業要望の内容について

平成 27 年度の重要事業要望について事務局より報告。

(委員)

振興審議会には直接関係がないと思うが、今説明があった内容について私の考えを述べたい。

駅前に住んで事業をしており、良かった時代と現在を見ているため、普段からどうにかしなければと考えている。本町でも整備事業が採択されたので、引き続き駅前にも目を向けていただきたい。

また、以前から、駅周辺をどうするか、四つ角整備をどうするか、バイパスからまちなかに人を呼び込むにはどうするか、河川敷をどう生かすかについて自分なりの考えを持って、要望をしている。

その中の一つとして、駅前通りの一つの四つ角をラウンドアバウトにできないかと考えている。また十日町のクランクの交差点もラウンドアバウトにすれば、今のままでも交差点改良ができるのではないかと考えている。また、かわと道の駅についても、ぜひ実現して欲しいと考えている。

7 その他

なし

8 閉 会

(事務局長)

進捗管理について申し上げたが、数値的に評価するのか、感性的なところをどう評価するか、是川先生とも相談しながら検討していきたい。

国土利用計画については具体的な絵がないと検討できないと思うので、完成されたものでなくとも都度提示しながら審議していただきたいと思う。

以上